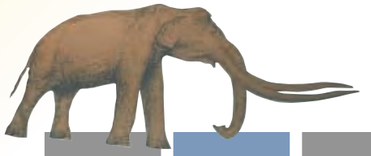
ヒストリー



旧石器時代
50万年以上前
侵食で現れたアカシゾウの化石

8世紀
万葉集に歌われた白砂青松
柿本人麻呂などの万葉歌人は静かな波の打ち寄せる白い砂浜と松林の続く東播海岸を歌っている

845年
高僧行基が築いた港
行基は大陸との交流や物流に大切な港を築いた
東播海岸には、魚住泊（明石市魚住）韓泊（姫路市的形福泊）蟶生泊（揖保郡室津）が現存する

1931
昭和6年
姫路河川国道事務所の前身が開設される
内務省大阪土木出張所兵庫国道改良事務所開設
翌年内務省神戸土木出張所兵庫国道改良事務所と改称
現在の当事務所の前身として産声を上げる

1950
昭和25年
ジェーン台風による被害
海岸に大きな被害を受けたことから、兵庫県において国庫補助による海岸侵食対策事業が始まった

1956
昭和31年
海岸法が制定される
津波、高潮、波浪その他海水または地盤の変動による被害から海岸を防護し国土の保全に資することを目的に海岸法が制定される

1957
昭和32年
建設省による海岸被害調査を実施
建設省により本格的に海岸が調査され
東播海岸の侵食対策・高潮災害対策・国土保全のための防護の重要性が認識された

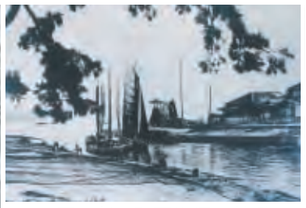
昭和32年海岸被害調査

1961
昭和36年
海岸保全事業の直轄化
海岸事業を直轄事業として
護岸を主体とした侵食対策事業に着手

荒れるにまかせる江井ヶ島海岸

1964
昭和39年
1965
昭和40年
台風による越波被害が相次ぐ
昭和39年の台風20号では重軽傷者9名・全壊家屋30戸
昭和40年の台風23号では家屋流出145戸・半壊903戸
越波被害も甚大であったことから
その軽減を図るため昭和43年から消波工設置着手

舞子浜 広重
（六十余州名所図会）
神奈川県立歴史博物館蔵



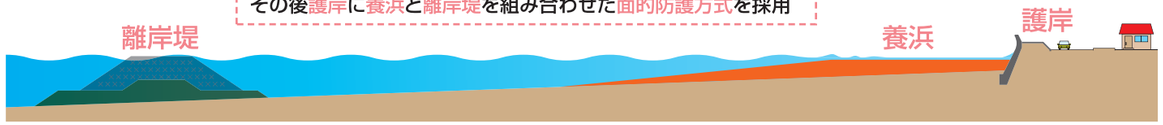
大正時代の明石川河口付近

大正時代の塩屋海水浴場

昭和39年20号台風（狩口地先）

アジュール舞子

昭和36年、海岸の侵食を食い止めるため、まず護岸工事がされた
その後護岸に養浜と離岸堤を組み合わせた面的防護方式を採用



護岸
昭和36年

離岸堤
昭和46年

養浜
昭和57年

1992
平成4年
C.C.Z.事業に着手
「大蔵海岸・舞子海岸」
海洋性レクリエーションの要望等に対応できるよう
様々な機能を備えた海浜空間の整備に着手

平成10年
大蔵海岸完成

平成11年
舞子海岸完成

1996
平成8年
エコ・コースト事業に着手
「江井ヶ島～谷八木」
「自然との共生を図り
豊かでうるおいのある海岸の創造」をめざして
生物系や自然環境に配慮した海岸を
整備する事業に着手

1997
平成9年
いきいき・海の子・浜づくり事業に着手
「魚住海岸～西島地先」
野外教育・社会教育活動等と連携して
世代間の交流の場や自然体験活動等
利用しやすい海岸づくりに着手

平成12年
完成

1999
平成11年
海岸法改正
防護・環境・利用の調和のとれた
総合的な海岸管理制度の創設を目指す